

群 教 セ	G11 - 03
	平20.240集

児童の望ましい人間関係を形成する 学級活動の工夫

— 言葉のハートマップとよさのフィードバックを取り入れて —

長期研修Ⅱ 研修員 大島 正幸

《研究の概要》

本研究は、「言葉のハートマップ」を活用した「互いを尊重する心を育てる活動」（学級活動）と、「よさのフィードバック」を生かした「よさを認め合う活動」（朝の会・帰りの会）とからなる、小学校学級活動における望ましい人間関係を形成するための実践研究である。活動を通して、個々の自己肯定感を高めながら、これまで表面的で固定化していた人間関係の改善を目指した実践である。

キーワード 【小学校 学級活動 人間関係 自己肯定感】

I 主題設定の理由

現代社会全体の人間関係が希薄になってきたといわれて久しいが、学校における児童生徒間でもそれは例外ではない。かつては、多様な人間関係のつながりの中で自ずと身に付いていった人との関係の取り方も、今日の子どもたちを取り巻く環境では、その機会を失っている状況である。そのため児童の人間関係は固定化しがちで、その関係も友達や仲間から外されたくないといった思いから、自分を表現することに臆病であったり、相手に合わせることで取り繕ったりと表面的な関係に陥っている。

平成20年3月、学習指導要領の改訂に伴い、特別活動において最も注目すべきところは、新設された各内容の目標すべてに、「望ましい人間関係を形成し」という文言が共通して示されたという点である。これは、自分に自信がもてず、人間関係に不安を感じていたり、好ましい人間関係を築けず社会性の育成が不十分であったりする状況が見られたりすることから重視されたことである。そして「望ましい人間関係」を、「互いを尊重しよさを認め合える関係」として、低中高の発達段階に応じた具体的な姿を示されている。

研究協力校の5年生は、入学当初から単学級であり、クラス替えの経験がない。そのため、30名の学級集団で5年目を迎え、友達関係が固定的になりがちである。特に女子は特定の二人組で行動する場合が多く見られる。また、集団としては高学年らしい規律ある生活が送れ、気心が知れあっている反面、友達同士が馴れ合いになり、これまでの友達への固定観念もはたらき、軽率な言動で

トラブルとなる場面もある。更には、友達に言いにくいことを言わなくてはならない場面では、きちんと言えなかったり、逆に感情に任せて言い過ぎてしまったりすることにより、人間関係に不都合をきたしてしまう事も多い。互いの気持ちを大切にし、友達のよさについて新たな発見ができるような関係を築きたいと願うところである。

そこで、児童一人一人が、これまでの友達とのかかわりを振り返り、どのような言動がどのような気持ちを生み出しているのかということに気付くように働きかけていきたい。そして、自分も友達も大切にしたい心がはたらく言動の価値の高さを感じていき、実際にその心で行動できる友達の姿を「よさ」として、認め合っていく活動を取り入れていきたい。なぜなら、自分の言動が他者からよさとして認められることは、自己肯定感が高まり、更なる互いを尊重し、よさを認め合う活動への活性化につながり、望ましい人間関係の形成に結び付くと考えたからである。

その意味において、本研究では、「学級活動Ⅰ～Ⅲ」において、言葉と気持ちの関係を表した「言葉のハートマップ」を活用しながら互いを尊重する心を育て、その実践へとつなげたい。更に「朝の会」「帰りの会」において、児童が感じた友達のよさを、教師を經由して友達に返す「よさのフィードバック」を生かした、「よさを認め合う活動」の工夫を取り入れて、自己肯定感を高めていくことは、望ましい人間関係の形成に有効であると考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

学級活動において、互いを尊重する心を育て、よさを認め合える活動を行っていくことは、自己肯定感が高まり、望ましい人間関係を形成するのに有効であることを、実践を通して明らかにする。

III 研究の見通し

1 「互いを尊重する心を育てる活動」にて

学級活動において、言葉と気持ちの関係を表す「言葉のハートマップ」を活用して、自分も友達も大切にすることを言葉かけについて学んでいけば、「互いを尊重する心」が育つであろう。

2 「よさを認め合う活動」にて

「朝の会」や「帰りの会」において、友達の「互いを尊重する姿」を振り返る活動をして、「よさのフィードバック」を行っていけば、自己肯定感が高まり、よさを認め合う心が育成され、望ましい人間関係の形成につながるであろう。

IV 研究の内容と方法

1 研究の内容

(1) 基本的な考え方

① 望ましい人間関係とは

新学習指導要領に示されているとおり、望ましい人間関係とは「互いを尊重しよさを認め合えるような人間関係」であるととらえた。また、個が高まり、個と個の関係が築けていった時、集団としての高まりが出てくるものと考えた。

② 言葉のハートマップの活用意義

「互いを尊重する心を育てる活動」において、抽象的な気持ちを、視覚的に表し理解を促すマップである。心がはたらいで発せられる言葉や行動について、「自分も友達も大切にしている」又は「自分だけ大切にしている」「友達だけ大



図1 「言葉のハートマップ」

事にしている」かを、「友達軸」と「自分軸」に照らし合わせて位置付けることによって、「互いを尊重する心」の理解を高めるものである。そうすることで児童が、その価値に気づき、自らの友達への言葉かけを見直すことにより、互いを尊重できる「望ましい人間関係」への行動につながると思う。

③ よさのフィードバックの意義

「よさを認め合う活動」において、「朝の会」で「ある日のできごと」のミニワークを通して分かち合った友達のよさや、「帰りの会」で一日の生活の中で具体的な姿としての友達のよいところについて振り返り気付いたことを「さわやかシート」(振り返りシート)に記入する。そして、それぞれの児童が記述した友達のよさについて、教師がコメントを記入し、本人に返していく。例えば、B君のよさを感じたA君は自分のシートにB君のよさを記入する。それを読んだ教師は、B君のシートのコメント欄に教師が感じたB君のよさを賞賛する(図2)。そうすることで、B君はA君が自分のよさを認めてくれたことを感じると共に、教師からもよさをコメントされたことで、二重の肯定感を感じることができる。よって、自己肯定感が高まり、よさを認め合う行動の実践が促され、望ましい人間関係の形成につながると思う。

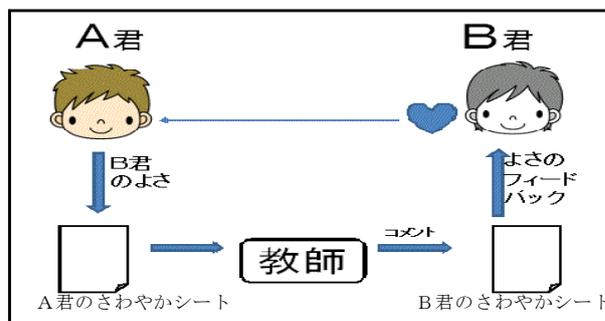


図3 よさのフィードバック

(2) 二つの活動の関連について

「互いを尊重する心を育てる活動」では、「互いを尊重する」ということについて、抽象的になりやすい概念を、言葉や行動の基となる「心」のはたらきに目を向けて学んでいく。学級活動「友達関係と言葉かけ」において「言葉のハートマップ」を活用していくことで、「互いを尊重する心」の理解が進み、実践への意欲が高まると考えた。

また、「よさを認め合う活動」とは、「互いを

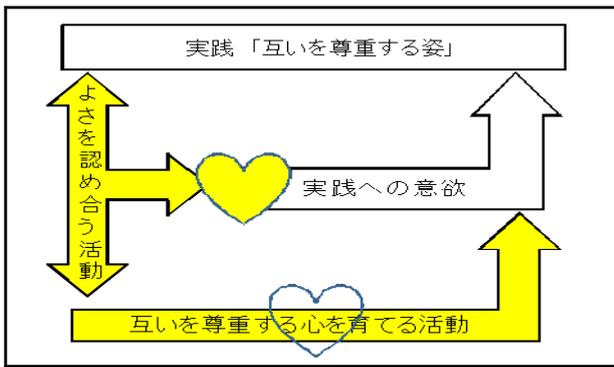


図3 二つの活動の関連

尊重している姿」を認め合う活動である。よさのフィードバックを取り入れ、よさを認め合えることにより、自己肯定感が高まり、更なる互いを尊重する行動への意欲が向上する。本活動でのよさの認め合いにより、互いを尊重する実践が意欲的に行われていけば、望ましい人間関係の形成に有効であると考ええる。(図3)

(3) 全体構想図

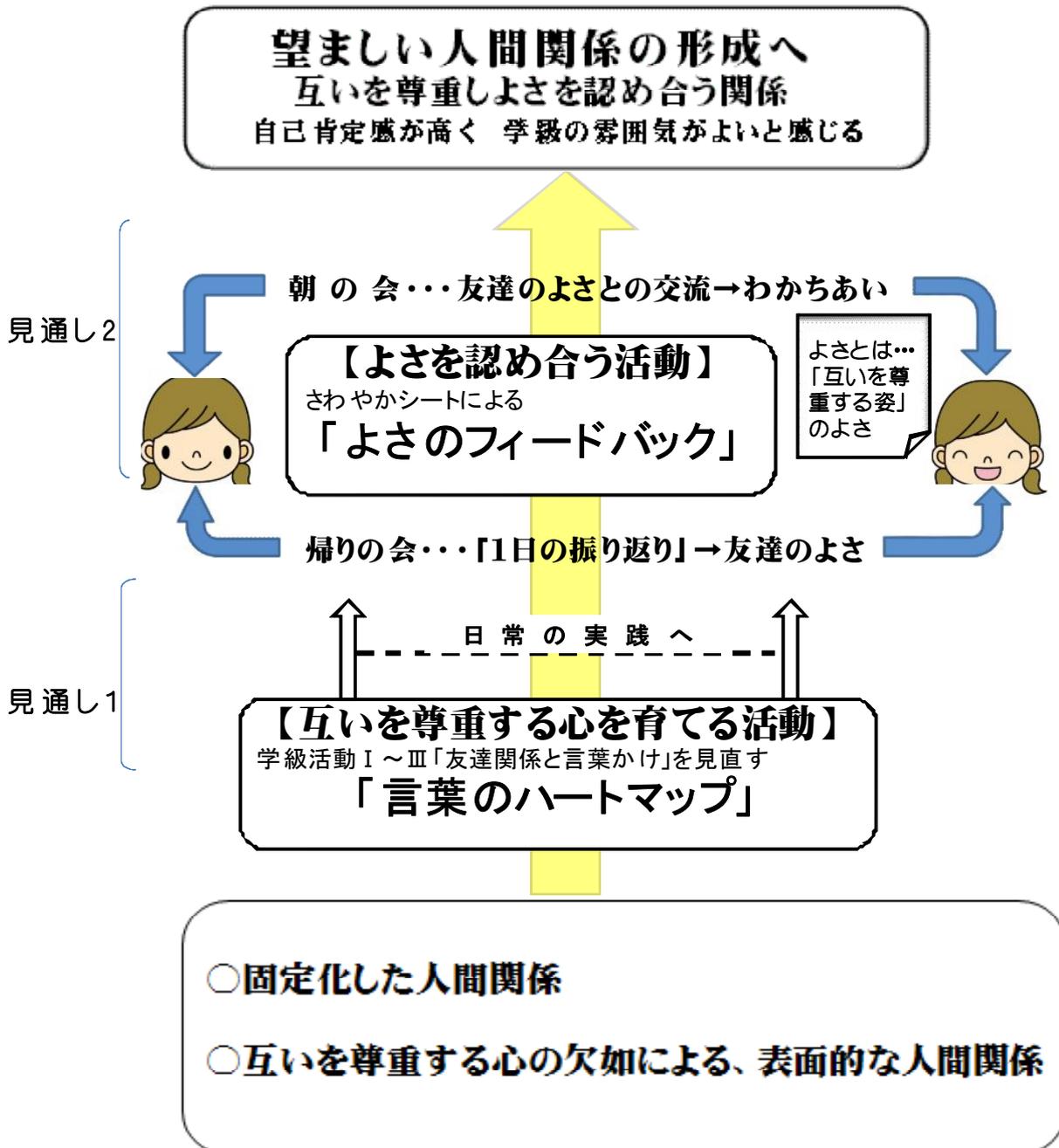


図4 全体構想図

2 研究の方法

(1) 実施計画

対象	小学校5年生 (30名)
実践	学級活動 (3時間) 朝の会・帰りの会 (5日間)
実施期間	10月27日～11月23日

(2) 検証計画

検証場面	検証の観点	検証の方法
事前	「児童間の人間関係」と「学級の雰囲気」	・教師による見取り
互いを尊重する心を育てる活動 (見通し1)	学級活動において、言葉と気持ちの関係を表す「言葉のハートマップ」を活用して、自分も友達も大切にすることを言葉かけについて見直していくことは、「互いを尊重する心」を育てるのに有効であったか。	・「学級活動」振り返りシート ・実践目標の設定内容
よさを認め合う活動 (見通し2)	「朝の会」や「帰りの会」において、友達の「互いを尊重する姿」を振り返る活動を行い、教師が「よさのフィードバック」を行っていくことにより、児童の自己肯定感が高まり、よさを認め合う心が育成され、望ましい人間関係の形成に有効であったか。	・さわやかシート ・児童の感想 ・メッセージカード
事後	「児童間の人間関係」と「学級の雰囲気」	・児童の感想 ・教師による見取り

V 研究の展開

1 指導計画

	取り組み	ねらい	活動内容 ※留意点
互いを尊重する心を育てる活動	学級活動Ⅰ	これまでの友達との言葉のやりとりを振り返り、友達への言葉かけは言う人の心の状態と関係があることに気付く	友達からの言葉かけについて、「うれしかった言葉」と「いやだった言葉」について、グループで発表し交流する。そしてそのような言葉はどんな気持ちから発せられるのかを話し合う。
	学級活動Ⅱ	三つの話し方を知り、自分も友達も大切にすることを言葉かけをすることのよさに気付く	言うべきことを言えなくていやな思いをした経験などを振り返る。そして「言葉のハートマップ」を介し、自分も友達も大切にすることを話すことの大切さを知り、心のはたらきを考えながら三つの話し方に分類をする。
	学級活動Ⅲ	自分も友達も大切にすることを深める。	三つの話し方をロールプレイを通して体験する。そして具体的な場面の想定のもと、「自分も友達も大切にすることを深める」に対応するにはどうしたらよいかグループで意見交換する。
	Ⅲが終わった日の帰りの会	学習したことをもとに、自分の課題解決のために、実践週間での目標を立てる。	さわやか旬間の振り返りに使用する「さわやかシート」に、実践目標を記入する。目標が抽象的にならないように、具体例を示し、自ら決められるようにする。
	朝の会Ⅰ	【友達にアドバイスをする】 場面：書き上がった絵を見せられて、課題点についてアドバイスしてあげる。	【朝の会の展開】(学級の実態を考慮してⅠ～Ⅴを設定) 1. 教師の場面説明(場面、相手役について)を聞く。 2. 教師のロールプレイを見る(もじもじ・いばりや)。 3. 児童はさわやかさんの言い方を自分で考え、ワークシートに記入する。

よ さ を 認 め 合 う 活 動	朝の会Ⅱ	【友達と違う意見を言うとき】 場面：次のレクの内容について、仲良しの友達と意見が違った場合。	4. 三人組みになりロールプレイをする。役割を交代しながら、互いの言い方を共有する。(教師はうまくできないペアを支援) 5. 三人の考えのよいところを相談し、自分たちの班のさわやさんの言い方をまとめる。(プリントの吹き出しに言い方を記入) 6. 発表したい三人組がいたら発表する。 二人がロールプレイをし、もう一人がどうしてこのような言い方にしたかをコメントする。 7. 振り返りをする(よさや気づき)。 8. 教師の話聞く。
	朝の会Ⅲ	【友達が失敗をしてしまったとき】 場面：自信をもって簡単な漢字の読みを発表した友達が、間違った読みをしてしまったその瞬間。	※振り返りでは、友達のよさを大いに取り入れるよう働きかけると共に、表現内容や方法について率直な感想や意見を出し合わせ、「うまくない」「だめ」というような否定的な言い方をさける。「こうすればもっとよくなる」という肯定的な言い方で振り返りを支援する。 ※全ての三人組のプリントを教室内に掲示。友達の表現のよさを学び合い、積極的に日常に取り入れられるようにする。
	朝の会Ⅳ	【友達の誤解を解きたいとき】 場面：大の仲良しのAさんは私が昨日Bさんと遊んでいたことで、今日機嫌が悪そうです。	※尚、ⅣとⅤでは、5以降を下記の展開とした。 5. その友達の言い方のよさについて、メッセージカード(付箋)に書いて渡す。 6. メッセージカードを交換し終えた感想をシートに記入する。 7. 教師の話聞く。
	朝の会Ⅴ	【M君の悩み】 場面：けんかをしているわけでもないのに、あまり話したり遊んだりする友達が少ない。もっとみんなと友達になりたいな……。	
	帰りの会Ⅰ ----- 帰りの会Ⅱ ----- 帰りの会Ⅲ ----- 帰りの会Ⅳ ----- 帰りの会Ⅴ	「自分も友達も大切にしている心」で行動できたことを振り返り、次の実践への意欲を高める。	【帰りの会の展開】 ① 一日の生活を振り返り、自分自身の言動について「さわやかシート」に記述する。 ② 友達の姿で、「自分も友達も大切にしている心」からの言動を思い出し、「さわやかシート」に記述する。 ③ 教師が見つけた、「今日のさわやかさん」の話しを聞く。 ※帰りの会Ⅰでは、「1秒の言葉」の詩を紹介し、短い言葉の中にも心がこもっていると、相手に気持ちを伝える事ができることを感じてもらう。

VI 結果と考察

1 互いを尊重する心を育てる活動

学級活動において、言葉と気持ちの関係を表す「言葉のハートマップ」を活用して、自分も友達も大切にしている言葉かけについて学んでいくことは、「互いを尊重する心」を育てるのに有効であったか。

(1) 実践の概要

① 学級活動Ⅰ

自分が言われて「うれしかった言葉」と「いやだった言葉」について付箋に記入し、各班でKJ法に従って付箋を分類し、思いを共有し合った。そしてこのような言葉を発する人は、どのような気持ちで言っているのかを話し合い、吹き出しの中にその気持ちを記入した。そうすることで、言葉にはそれを支えている心のはたらきに従って発せられることに、より深く気付い

ていけるからである。

② 学級活動Ⅱ

前時の班別に貼られた付箋を、「言葉のハートマップ」の縦軸である友達軸に位置付け、導入で提示をした。そして、吹き出しの中の気持ちと合わせて示した事で、友達を大切に思う心で発せられる言葉の心地よさを感じ確認した。(図5)

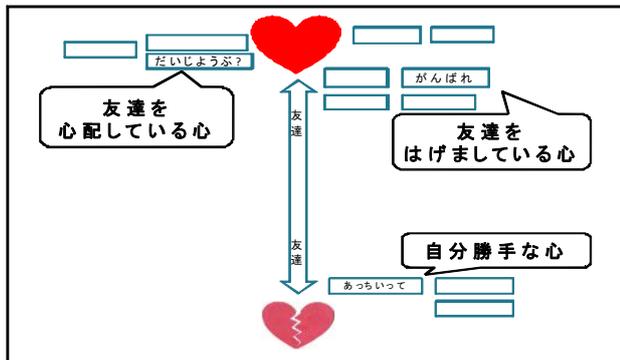


図5 「言葉のハートマップ」友達軸のみ

更に「自分が言いたいことがあるのに言えなかったこと」の経験を想起させ、ワークシートに記入をする。自主的に発表してくれる児童の内容を取り上げ、全員でマップへの位置付けを考えた。そこで横軸である自分軸を取り上げて、自分も大切にする視点ももてるようにした。そして、前時からのカードを自分軸と友達軸に沿って位置付け、3つの部屋に収まることを確認した。そしてそれぞれの部屋のタイプについて名前を考えた。(図6)

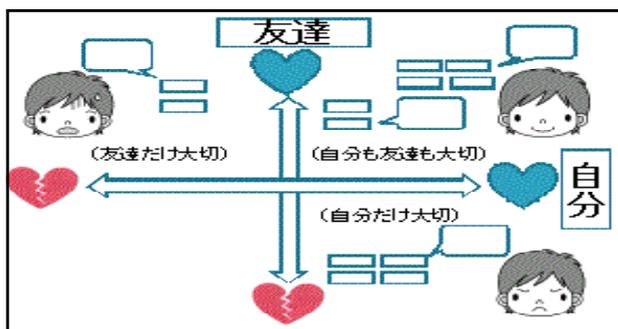


図6 「言葉のハートマップ」

③ 学級活動Ⅲ

児童から出されたアイデアを取り入れ、教師の思いも加味しながら、3つの部屋の名前を発表した(もじもじさん・いばりやさん・さわやかさん)。子どもたちは、それぞれの言い方でロールプレイをし、「自分も友達も大切にする」さわやかさんに価値のあることに気付く。そし

てさらに日常生活での具体的な場面を想定し、さわやかさんで行動するにはどうしたらよいかを考えた。

(2) 結果と考察

① 学級活動Ⅰ

自分が言われて「うれしかった言葉」と「いやだった言葉」についての分類は、5年生の児童にとっては既に基本的な事柄であるが、言葉と気持ちの関係に、あらためて目を向けてもらいたいねらいから活動を取り入れ、大変積極的な取り組みの姿が見られた。KJ法を取り入れた活動は児童にとって初めてであったが、このテーマで友達との意見交換、そして気持ちの交流、わかり合いができたことで充実した取り組みとなった。

児童の感想より

- みんな色々言ってもらったり言われたりしてることも分ったし言った人の気持ちも考えられてよかったです。
- 今までこういうことを先生に言えなくて、心が苦しかったけど、今日の授業で書けたので心の中がすごくすっきりしました。とても良かったです。今度そういうことをいわれたら先生に言いたいです。
- いやなことを言ってる人の気持ちやうれしい、いいことを言っている人の気持ちがよくわかった。
- うれしいことを思い出した時はもっとうれしくなったけど、いやなことを思い出したらもっといやになったので不思議だなと思った。

言葉の問題から気持ちの問題に視点が向けられた感想が多かったことから、言葉は心のはたらきによって発せられ、相手の心に響いていくことの理解が深まったと思われる。

② 学級活動Ⅱ

本時では、導入で友達軸のみに整理したハートマップを確認した後、A君の「休み時間、友達から図書室に行こうと誘われ、ぼくは本当は校庭で遊びたかったけれど、それが言えなくて、図書室に行きました。」との発言を受けて、「・・・じゃ行こう」というカードを教師が作成、自分軸が加わったハートマップの位置付けを考

えた。

教師：「図書室に行きたいのは誰ですか？」
児童：「友達です。」
教師：「ならば、友達は満足だね。では、自分はどうだろう？自分は図書室に本当に行きたいのかな？」
児童：「違います。本当は校庭で遊びたいのです。」
教師：「そうだね。本当は図書室ではなくて、校庭で遊びたいと思っているのだから、自分の本当の気持ちではないよね・・・じゃ行こう、と言っているけれど、自分は満足かな？」
児童：「友達は満足だけど、自分はちがいます。」
教師：「とすると、ここの位置（座標の左上）でいいかな。」

という、やりとりをしながら「・・・じゃ行こう」のカードをマップに位置付けた。

続いて、前時で「いやな言葉」でマップに貼られている「はやくしてよ」のカードなどについての位置づけを確認した（はやくして欲しいと思っているのは自分。言いたいことを言っている。でも言われた友達はいやな気持ちだから、右下）。そして「言葉のハートマップ」上での位置は、3つの部屋に収まることを確認し、更に日常生活であり得る「ある日のできごと」のワークシートの3つのパターンのやりとりが、どこの部屋に入るのかを考えた。

児童の感想より

- いろいろみんなが言えなかったことや、言いたいことを言えなかったことが分かりました。言いすぎるとけんかになると思いました。
- 私はたまに、友達がいやだという言葉を使ってしまう。それは、自分は満足だけど、友達がいやだということが、あらためて分かったので、今度からは、言わないように気を付けたいです。自分も友達も二人とも気持ちがよくなるような、そういう言葉かけをいっぱいしたいと思いました。

「言葉のハートマップ」の自分軸が加わったことで、友達の気持ちはもちろん、自分の気持

ちも大切にしなければならないことの意味を感じることができたと考える。そして児童は、これまでの言葉を単なる言葉ではなく、その言葉を支えている互いの心のはたらきについて視点を当てて、マップを見つめながら考え深めるようになった。

③ 学級活動Ⅲ

本時では、それぞれ3つのタイプの話し方のロールプレイを通して、互いを尊重することの大切さについてより理解が深まったと感じる。

児童の感想より

- 私は「いばりやさん」で言ってとてもスッキリしました。でも「いばりやさん」で言うと自分はスッキリしたとしても友達はとてもいやな気持ちになるので「さわやかさん」にしたいと思います。「さわやかさん」なら自分もいい気持ちになるし、友達もいい気持ちになるので「さわやかさん」で言いたいです。「もじもじさん」は自分のことが言えないので「さわやかさん」で言いたいです。

三つの話し方を実際に体験をし、自分も友達も大切にしたい心で話すことが大切である実感をした姿が伺える。

学級活動Ⅰ～Ⅲを終えて、「自分も友達も大切にしたい心」で行動する実践期間であるさわやか旬間実践目標を設定した。以下が児童が掲げた目標の例である。

児童の目標より

- いばりやさんにならない。
- すぐにおこらないようにする。
- だまらなくてきちんと言う。
- もじもじすることを直す。
- 毎日少しずつでも、さわやかさんになる。
- いばりやさんではなくて、いつもさわやかさんになろう！
- すぐに怒らないで自分の意見を分るように伝える。

児童は、それぞれこれまでの自分の傾向を確認し、これからの課題とすることは何かについて考え、目標を設定した。Nさんは目標設定にあたり「私は、言いたいことをつい言いすぎてしまって人をきずつけてしまいます。ちょっと

直した方がいいと思いました。」と。また、K君は「ぼくは、いい時もあるけれど、言いたい事を言えない時もあるから、そこを直した方がいいと思います。だからさわやかさんになりたい。」と感想を書いた。

「自分も友達も大切にする」さわやかさんの価値についての認識は、どの児童にも高まり、自己課題を踏まえた上での目標が設定できたことは実践への意欲の表れであると共に、互いを尊重する心の深まった姿であると考えます。

2 よさを認め合う活動

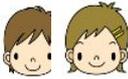
(1) 実践の概要

「朝の会」や「帰りの会」において、友達の「互いを尊重する姿」を振り返る活動を行い、教師が「よさのフィードバック」を行っていくことは、児童の自己肯定感を高め、よさを認め合う心が育成され、望ましい人間関係の形成に有効であったか。

① 「朝の会」における、友達のよさとの交流

朝の会Ⅰ～Ⅴでは、ワークシート「ある日のできごと・・・」を使って活動する。「ある日のできごと・・・」とは、児童の日常生活でありうる場面を想定し、こんな時自分だったらどのような言動で対応するか、自分も友達も大切にしたい「さわやかさん」で対応するにはどうしたらよいかを互いに交流していくためのワークシートである。朝の会Ⅰ～Ⅲでは、記入した自分の考えを三人組の班になり、三人のよさを取り入れながら、班としてのさわやかさんの言動をワークシートの吹き出しにまとめた。

ある日のできごと・・・



図工の時間、絵画展の作品を仕上げているY子さんがわたしに、アドバイスを求めています。Y子さんは、いつもいっしょけんめいに作品を仕上げている、作品は全体的に下書きも色ぬりもきれいにかけています。ただ、苦手な空の色をぬるのに、色がにじんでしまったようです・・・。

さわやかさんで言ってみよう

Y子：「なかなかうまくいかないなあ・・・」
(Y子がかいた絵を、わたしの前にみせてはなしかけてきた)

Y子：「ねえねえ、こんな感じでしあげにしたいと思っているんだけど、どうかな？」

わたし：「」

図7 「朝の会Ⅰ」のワークシート

また、朝の会Ⅳ・Ⅴでは、班でお互いのさわやかさんを交流し、メッセージカード（付箋）に相手のよさを書いて渡してあげる活動を取り入れた。朝の会の取組みの発展型として、互いのよさについて、直接伝えることは、よさをより実感できると共に、互いの信頼も深まるものと考えたからである。

② 「帰りの会」における1日のよさの振り返り

「さわやかシート」への振り返りは、自分自身のことと、友達のよさの振り返りとした。記入の際、思い起こせる範囲で無理に書かせるようなことはしない。具体的な言動と、かっこの中に、その時の自分の気持ちを書くようにした。

③ よさのフィードバック

教師は「さわやかシート」の友達のよさの記述を、児童同士の互いのかかわりに留意して、継続してチェックする。よさの記述があった児童にはもちろん、なかった児童にも、教師が見取ったその子のよさについてフィードバックしていくようにした。

(2) 結果と考察

① 「朝の会」における、友達のよさとの交流

ア 3人で相談をして、よさを取り入れながら班でまとめたさわやかさんの例(朝の会Ⅰ)

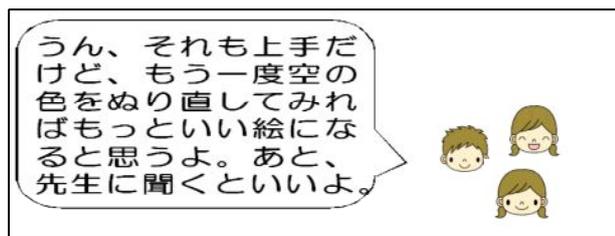
〈友達にアドバイスする：それぞれの考え〉

A君 	もう一度ぬり直したらいいんじゃない？
Bさん 	うん、それも上手だけどもう一度空の色をぬり直して見ればもっといい絵になると思うよ。
Cさん 	ぬり直した方がきれいになると思うよ。あと、先生に聞いてもいいと思うよ。

～互いのよさを認めながら相談～



～三人で、よさを取り入れまとめた結果～



三人がそれぞれの友達のよさを認め合い、よさを取り入れながら活動ができた様子が分る。

(Cさんの感想から)

友達のいろんな言い方が分って、とってもいい勉強になります。相手のいいところをほめてからアドバイスすることは、これからもあると思うのでおぼえておきたいです。

朝の会で取り上げている「ある日のできごと」の事例が、児童にとって身近な問題としてとらえられ、一人で考えるより、友達と交流することのよさが実感されている。

イ 互いのさわやかさんの考えについて、メッセージカードをやりとりしたDさんの活動例(朝の会 IV)

〈友達の誤解を解きたいとき：Dさんの記述〉

昨日はYさんが一緒に遊ぼうといったから、一緒に遊んだだけで、Xさんのことはきらいになっていないよ。Xさんもさそえばよかったね。

〈上記を受けてDさんがもらったメッセージカード〉

やさしさが感じられてとても良かった

Eさんより

Dさんのことをきらいじゃないと言ったり、さそえばよかったと言っているところが、とてもやさしいね。

F君より

〈メッセージカードをもらった後のDさんの感想〉

二人から“やさしさ”や“さそうところ”が良いいってもらえて、うれしいことがいっぱいだったので、すごくうれしかったです。

直接自分がもらったメッセージカードに、自分の考えに対する肯定的な言葉が書いてあることへの児童の喜びが伺える。このような感想が最も多く、また自分以外の考えと交流できたことのよさを感じる感想も多かった。

② 「帰りの会」における1日のよさの振り返り

友達のよさについての振り返りでは、短い言葉ではあるが、自分を大切にしてくれている言葉かけの記述が多かった。その内容は以下のとおりである。

友達のよさを感じた言葉

感謝 「・・・してくれて、ありがとう」

賞賛 「・・・うまいね」「すごいね」

援助 「大丈夫？手伝うよ」

誘い 「一緒に・・・しよう」

また他には、登下校のあいさつや、実際に手助けをしてもらった行動に対する、友達からの働きかけに、児童の気持ちの高まりが感じられ、よさの記述に表れていた。更に朝の会における、友達の表現のよさの記入もあった。

③ よさのフィードバック

以下、3事例(ア～ウ)のように児童のよさを把握し、できるだけ多くの児童によさのフィードバックを行った。

ア よさのフィードバックの実際:1

〈Gさんが書いた、こんな「さわやかさん」をみつけましたの内容〉

☆今日、こんな「さわやかさん」をみつけました			
			
いつ	どこで	だれが(だれに)	こんなことを言いました(その時の気持ち)
5分休み	教室	Hさんが私に	絵がじょうずだね!(すごくうれしかった)
【先生より】			

図8 Gさんのさわやかシートの一部

〈Hさんへ“よさのフィードバック”：Hさんのさわやかシートより〉

【先生より】(よさのフィードバックの箇所のみ抜粋)・・・5分休み、Hさんから「絵がじょうずだね」ってほめてもらった友達が、とっても喜んでいましたよ。友達のいいところを素直にほめてあげられてえらいですね・・・

教師からのよさのフィードバックにおける、コメントの内容は、以下のように心がけた。

児童のよさの姿（事実）→よさが施された友達
 たちの気持ちの高まり（友達の感情）→児童のよ
 さへの賞賛、励まし（教師の感情）

イ よさのフィードバックの実際:2

〈朝の会の活動を振り返って、A君がBさんのよさを振り返った内容〉

いつ	どこで	だれが (だれに)	こんなことを言いました (その時の気持ち)
朝	教室	Bさん が班の 活動で	相手をほめてから アドバイスをし ていたところがよ かった（ぼくは、ほ め ないでアドバイス だけだった）

図9 A君のさわやかシートの一部

〈Bさんへ、よさのフィードバック：Bさんのさわやかシートより〉

【先生より】（よさのフィードバックの箇所のみ抜粋）・朝の会でのBさんのさわやかさんは、アドバイスの前にほめてあげていたとるに、班の友達が感心をしていましたよ。友達を大切に思う、とってもいい伝え方ですね・・・

さわやかシート中の（ ）の中に、その時の気持ちを記入することにより、その言葉や行動から感じる「心」と向かい合うことができた。自分がうれしく思ったことや、気持ちがよかったことなどを想起し振り返ることは、再びよいイメージが心に刻まれ、自らの行動の基になる力となると考える。

ウ よさのフィードバックの実際:3

〈朝の会Ⅳの活動で、メッセージカード（前頁）をもらったDさんの感想から、F君へフィードバック〉

【先生より】（よさのフィードバックの箇所のみ抜粋）・朝の会でのF君からメッセージカードをもらった友達が、とっても喜んでいました

よ。友達のいいところをほめてあげると、友達が元気になるね。いいところを素直にほめてあげられるFさんもさわやかさんですね。

全員の児童によさのフィードバックをしたいが、児童の中には、友達からのよさの記述が無い日もある。その時は、教師が気付いたその子の活動のよさについてのコメントをした。朝「さわやかシート」を教師から返却してもらうのを待ちわびる姿が多く見られるようになり、帰りの会での振り返りの際、友達のよさを記入する児童数も日に日に増えてきた（図10）。児童が友達を肯定的に受け入れられていると考える。

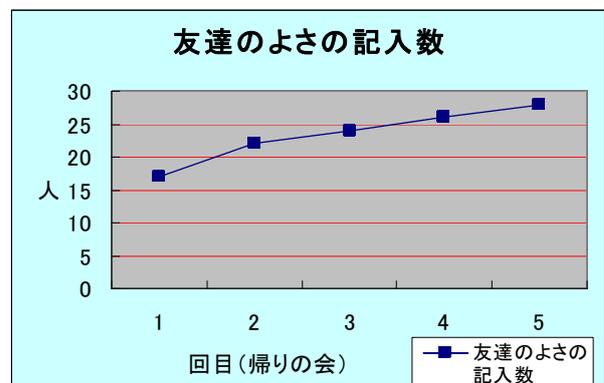


図10 帰りの会での友達のよさを記入できた児童の人数

3 児童の変容

(1) 学級の雰囲気に変化が出てきた様子を記した児童の感想

- 最近、友達がやさしくなって、はきはきとしてきました。「もじもじさん」や「いばりやさん」にみんなならなくなりました。
- 最近クラスのみんながいいことをしている気がする。あと、自分からすすんで手伝う人が多くなった。

(2) 自己肯定感の高まりと関連があると思われる児童の感想

- 〈友達関係に変化が出てきた感想〉
- 自分をやさしくしてくれる人がいてうれしいです。
 - ちょっと友達が増えている感じがする。
 - 最近、友達と自分をもっと仲良くなった気がする。
 - やさしく声をかけることは、前はそんなに

なかったけれど、最近になって自分なりにやさしく声をかけることは前よりはできてきたと思います。なので友達も増えてきてうれしいです。これからも続けて行きたいです。

〈自分自身に変化が出てきた感想〉

- 最近の自分は、いろんな人と話したり、遊んだりできるようになった。友達も前はAちゃんと二人で遊んでいたけど、最近ではBちゃんやCちゃんも混ざって四人で遊ぶことが増えた。
- この勉強をしてから、前は話さなかった男の子や仲のいい友達以外とも話せるようになって仲良くなってきました。

互いを大切に思う心が触れ合うことで、児童の心に安心感と喜びが生まれている。「さわやかシート」の見取りからは、友達への「感謝」「励まし」「賞賛」「思いやり」などの、心あふれる言動がやりとりされ、よさを認め合い、互いの心が高まっている様子が感じられる。そして、その言動のよさを教師よりフィードバックすることで、更なる自己が高まり、互いを尊重する姿へとつながる良い循環となっていると考える。(図11)

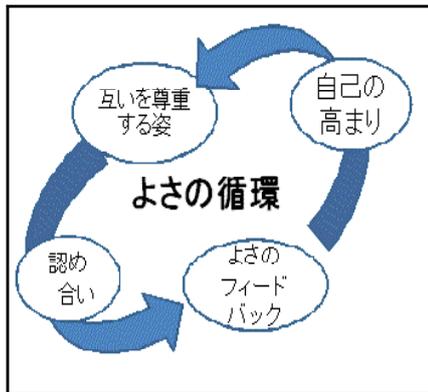


図11 よさの循環

(3) 事後の観察 ～担任より～

【活動が生かされている場面】

- 友達同士のトラブルになった時に、どうしてそうってしまったのかを互いに話し合わせると、自分が言うべきことをきちんと言えなかった(モジモジさんだった)からとか、自分の言い方が少し強すぎた(いばりやさんだった)からなどと分析するようになった。
- 係や、掃除当番の仕事を友達に頼む時など、「ごめんね」とか「ありがとう」という言葉をきちんと言えるようになった。

【集団としての高まりが見られる場面】

- クラス全体が明るくなった。今まで子どもたちが知っているようで実はわかっていなかった、思いやりのある言葉かけや、互いを認め合うことを具体的に行動に移し実践する中で、児童の体験が生まれている。例えば、集団での話し合い活動では、一人一人の友達の意見を大切にしようとしている姿が見られたり、清掃当番などの反省会では、友達を讃える言葉や、もっとこうして欲しいという要望などの言い方を意識して発言したりするなど、互いの関係を大切にしようとしている姿が随所に見られる。そして集団としてもっと多様に友達同士が交流していきたいという気運が高まってきている。

実践後、約一ヶ月が経過した学級の様子を観察した担任の先生からのコメントである。互いを尊重するというのを、言葉のハートマップを用いて具体的に学んだこと、そして、実践の中でよさを認め合い、フィードバックをするなどして自己肯定感を高めながら取り組んできたことが、その後の児童の意識低下とならず、実践への継続につながっているものと考えている。友だちとの関係を大切にしていこうとしている児童の意識と、それに伴う集団の高まりが感じられる。

VII 研修のまとめ

1 成果

- 望ましい人間関係の形成のために、互いを尊重する心を育てる活動と、よさを認め合う活動を取り入れたことにより、児童の自己肯定感を高めることができ、友達を肯定的に受け入れたりと、友達を大切にしたい行動へとつながったりと、人間関係の改善へとつながった。
- 学級活動で言葉のハートマップを取り入れたことで、言葉を裏付けている心のはたらしきについて知ることができ、互いを尊重する心を育てる上で有効であった。
- 「互いを尊重する姿」をよさとして、そのよさを認め合い、よさのフィードバックをしたことで、児童の活動への意欲が向上し、実践が活発になり、学級全体が互いを尊重することへの雰囲気が高まることにつながることが分かった。

2 課題

本研究における活動後の感想では、友達に対する見方に変化が見られなかった児童が数名いた。具体的には、「深める活動」において「言葉のハートマップ」を介しての積極的な取組みが見られたが、友達への不信感や、自分に自信のないところが見られた児童がいた。また、自分に自信をもって活動していた姿とは反対に、学級の友達への見方が肯定的とは言えない児童もいた。これらの児童には、「よさのフィードバック」の際に、コメントを工夫したり、授業中などの活動の中で意図的な支援をしたりと努めてきたが、更なる個に応じた支援の工夫が必要であったと思われる。全体のプログラムの進捗と、個へのかかわりについての視点を深めていきたい。

また、「言葉のハートマップ」を日常の生活の中で教室掲示をして常時活用していく方法を工夫したり、更に「よさのフィードバック」においては、日常の教師の言葉かけ、また日記や連絡帳などの活用を工夫していくことで、日常的な取組みとして効果的に生かしていけるものとする。

〈参考文献〉

- ・ 園田 雅代 中釜 洋子 著
『子どものためのアサーショングループワーク』
金子書房(2000)
- ・ 相馬 誠一 編著
『学級の間人関係を育てるグループ・アプローチ』
学事出版(2006)